

第35回テーマ：六甲山における野外教育
～六甲山YMCAの活動～



六甲山YMCA 星野池

講演内容

- ① YMCAとの出会い
- ② YMCAの紹介
- ③ 六甲山YMCAについて
- ④ 今の子供たちの様子
- ⑤ 野外体験の必要性
- ⑥ YMCA野外教育

実施日：平成18年2月18日(土)
午後1時～3時50分

場 所：六甲山YMCA 里見ホール



講師：池田 勝一さん

プロフィール

1955年生まれ。大阪体育大学体育学部卒業。1978年4月大阪YMCA入職。2001年11月大阪YMCA六甲研修センター(現六甲山YMCA)所長

六甲山に春が迫っている

六甲山は先月にあった雪がなくなり、すっかり様変わりしていました。時々吹く風は冷たいものの、日差しは暖かくどことなく春の気配を感じました。今回午前中の参加者は5名と少なめでしたが、いつもの清掃活動に加えて散策路沿いの樹木の種類を確認しました。歩行の安全面について、散策路の階段の状態なども検討しました。

青少年教育キャンプ場開設から50余年

六甲山YMCAは、戦後の荒廃から立ち直り始めた頃、1951年に日本初の青少年教育キャンプ場を創設し、以来、六甲山における代表的な野外活動の拠点となっています。子供たちが安全で楽しく、体験学習を通して「生きる力」を育てることに注力されています。

所長の池田勝一さんからYMCAのこれまでの歴史や活動についてお話いただきました。約50年前に六甲山上のキャンプの様子を映したビデオも見せていただきました。



知られざる六甲山YMCAの歴史を紹介

「野外教育は自分の力を養う」と池田さん

学生時代から現在にわたる池田さんのYMCAとの関わりや、青少年教育の意義を語っていただきました。施設再建の思いや、事業や経営の工夫についてもお聴きしました。YMCAの理念に共鳴しながら活動する池田さんに、生涯かけて取り組む熱意を感じました。子供たちが自分の力を養う上で、野外教育がいかに重要かを見直しました。

六甲山の活動を互いに支えよう

六甲山YMCAは、キリスト教の精神に基づいて活動していますが、宗教団体ではなく教育団体です。この誰でも使える六甲山上の貴重な施設を、みんなで活用できるように協力していきたいと思いました。池田さんたちの4年間の熱心な活動にもエールを送り、さらなる展開を期待したいです。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 吉松 昌紀さん

サッカーの勇として学生時代を過ごされた後、YMCA組織に入られました。

六甲山YMCAの長い歴史の中における所長として、使命感および人生感をもって体験学習即ち野外活動学習を通じて、現代の教育の不備を補っておられます。「生きる力を育てる」為の造詣の深さ、熱意をお話を伺いながらひしひし感じました。



主催：六甲山自然保護センターを活用する会
協力：兵庫県立人と自然の博物館
後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】

(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)、(財)ひょうご環境創造協会、コープこうべ環境基金、灘区役所「地域力を高める」事業助成



テーマ：六甲山における野外教育



第35回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. 昼食懇親：12：30～13：05
2. あいさつ：13：05～13：15
3. 講演：13：15～14：50
4. 質疑応答：15：10～15：30
5. 懇談会：15：30～15：50

講演

- ①YMCAとの出会い
- ②YMCAの紹介
- ③六甲山YMCAについて
- ④今の子供たちの様子
- ⑤野外体験の必要性
- ⑥YMCA野外教育



貴重な記録ビデオを視聴

講演の挨拶(池田勝一さん)

YMCAに入って30年になります。六甲山YMCAの所長を務めて4年になります。話が苦手でもどこまで話せるかわかりませんが、仕事に対する自分の思いも含めお話ししたいと思います。



池田勝一さん

講演内容

1. YMCAとの出会い

■サッカーに夢中の毎日

中学生の頃は勉強が嫌いで、スポーツさえしていれば勉強をしなくても先生になれるのではないかと考えていたが、現実には学力が必要であることを大学に入学し痛感した。

大阪体育大学ではサッカー部に所属し、日々、ボールに汗しながら将来は教職を志していた。YMCAに入職したのは、ゼミの教官(YMCA体育研究所委員)の紹介で受験したのがきっかけである。

2. YMCAの紹介

■YMCAの設立

Young Mens Christian Associationの略で、キリスト教青年会と称し、キリスト教精神に基づく、種々の活動を幅広く展開している。YMCAは1844年、ジョージ・ウィリアムズら12名の青年が、ロンドンにYMCAを創立したのが始まりで、現在128の国と地域で活動を展開している。

■大阪YMCAの概要

大阪YMCAは1882年に設立された。創設以来キリスト教精神を基盤として、地域の人びとと共に活発なボランティア活動を展開し、国内・国外において多くの社会的貢献を行ってきた。

現在公益法人として、体育・野外活動などのウェルネス事業および宿泊研修事業を財団法人で、高等学校・専門学校・予備校・語学教育などの教育事業および幼稚園教育事業を学校法人で、特別養護老人ホームおよびデイサービスなどの社会福祉事業を社会福祉法人で行っている。

さらに、2006年4月にYMCAとさぼり保育園(認可園)を開設する。21世紀に入り、社会の仕組みが大きく変わろうとしている今、「大

阪YMCAの使命」によって、「青少年の育成」に重点を置き、時代の変化が生み出す課題に 대응するため、「ボランティア」と「生涯学習」が統合された「ネットワーク型福祉社会」を形成すべく、多様な活動を展開している。

3. 六甲山YMCAについて

1951年に教育キャンプ場として六甲山YMCAが開設された。星野行則氏(第4代大阪YMCA理事長)所有の別荘に加えて、阪神電鉄から土地を購入した。建物の殆んどは多くの個人・団体からの募金・寄付金で建てられている。

暖炉のある「里見ロッジ」は、里見純吉第5代理事長(元大丸社長)を記念して命名された。

六甲山の冬は厳しいため、年間を通じて利用ができるように現在の宿泊館が1975年に建てられた。現在は改修に手をかけている。



炊飯場



ファイヤー場

4. 今の子供たちの様子

■集団に入れない子供たち

核家族で育った子供たちは、言葉遣いや礼儀作法が身につけていないことが多いようだ。今の子供たちは屋外で集団(群れ)で遊ぶことが少なく、どちらかといえば友達と家でテレビゲーム・ゲームボーイをしていることが多い。

本来は、実体験を通して学ばなければならないことがバーチャル化(実体験不足・運動不足)している。また、一人遊びが多いために対人関係が希薄で集団遊びやコミュニケーションの取り方が苦手。

最近、利用していただいている団体客の希望は段々と個室を希望し、大浴場に入らないで個室の風呂(特に女子大生)に入る傾向になっている。だから大自然の中で集団(群れ)で遊ぶこと、そして、協力しながら生活することが大切だ。

5. 野外体験の必要性

■キャンプでの体験学習

六甲山YMCAが主催するファミリーキャンプに来られたお客様にあえて伝えるようにしていることがある。それは、本来は家では何不自由なく身近に物があり不足・不便を感じたりすることは少ないが、この施設ではお困りになることがあるのではないかということだ。

何故かというホテル・旅館と勘違いしてこれらのお客様が居られるからだ。YMCAはあくまでも教育施設である。

六甲山YMCAが管理している呼子キャンプ（鳥取県日南町）で、子供たちは川の水を汲むのに苦労している。水が、下の町まで流れていくことを考えて、汚してはいけないということ学ぶ。不便・不自由な生活体験の中で、それを不満に思うのではなく、どうしたら良いかと工夫すること、足りないものがあれば、自然にあるものを代用するようになり自分たちで創るといふ知恵をはたかせることができるのが自然の中でのキャンプだ。

また、普段家庭ではいかに便利な生活をしているかという気づき、感謝にもつながる。キャンプで大変さを体験した子供が、家に帰ってから部屋の電気を消しまわったという報告をいただいたことがある。

6. YMCA野外教育

■YMCAキャンプの願いは『生きる力をともに育む』こと

YMCAは多くの青少年に精神、知性、身体、社会性のバランスのとれた人間像をめざして、プログラムを提供してきた。それぞれの時代、社会状況とともに、プログラムの形態は変化してきたが、今も、変わらないことがある。

それは、人間の持っている欲求『認められたい、認めたい』に応じることだ。私たちは、青少年に関わりあい、関わり大切さを共に学び、育み続けてきた。『自分を生かし、活かされている、受け入れられている』という情緒の安定を基盤にして、『生きる力』を育んでいきたいと願っている。

YMCAキャンプの理念

1. 自然の生活に適応する能力を育成する。
2. 良い習慣を育て実践させる。
3. 健康のための知識と経験を与える。
4. 生活を豊かにする技術を学び、創造力を育成する。
5. よき友人を見出す機会を与え、友情を深める方法を学ばせる。
6. 民主的なグループ経験を通じて、社会における責任感を養う。
7. 神の恵を知らしめ、感謝の心を養う。

まとめ（池田さん）

私は、ただ場所を貸すだけでなく、ここで体験したことを指導・実践して、皆さんとともにやっていきたいと思っています。施設を有効に使ってもらうのが使命です。気軽に入って利用していただけたらな、と思います。

参加の感想 久保 順一さん

最近の子供たちは自然体験はもとより、生活体験、自ら行動を選択・実践する意欲が不足している。

直接体験の不足が問題で、キャンプなど野外活動を通じて体験させる事が重要である。

社会体育教育に関して熱く語って頂き、野外活動の重要性を認識できました。子供たちに限らず、大人のためにも野外活動の機会を増やせていけたら、すばらしいと思いました。



事務局より

六甲山YMCAは誰でも使える六甲山上の貴重な施設です。積極的にPRして活用したいと思います。

◆参考・配布資料など

- ・レジュメ
- ・冊子
『六甲山YMCA50年のあゆみ』
- ・1950年代のビデオ
- ・六甲山YMCA紹介ビデオ



六甲山YMCA

〒657-0101 神戸市灘区六甲山町北六甲 875
TEL : 078-891-0050 FAX : 078-891-0054
E-mail : rokko@osakaymca.or.jp
http://www.osakaymca.or.jp/camp/rokko/

◆参加者の声～アンケートより～

- ・YMCAの歴史を知ることができた。
- ・昔の六甲山をビデオで見られておもしろかった。
- ・池田さんの熱心さに感動した。
- ・昼食のボリュームが多かった。若者向け？
- ・もっとイベント広報をして利用を促して欲しい。

◆参加者：18名（順不同・敬称略）

池田 勝一 寺岡 進 村上 定広 浅井 審一
浅井 康枝 泉 美代子 七目木修一 小野 涼子
八木 浄 吉松 昌紀 久保 順一 清水 愛子
土井すみ子 増田みよ子 笠原かず子 堂馬 英二
堂馬 佑太 菖蒲 美枝